

JCS NEWS



SUNTORY HALL

アジア・パシフィック チェロ・コンGRESS 2020

- アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2020 を振り返る 2
チェロ・グランド・コンサート / クリニック&トーク 3
チェロでめぐる音の旅 / 公開マスタークラス 4

CONTENTS

- アジア・パシフィック・
チェロ・コンGRESS 2020 2-4
チェロ・サロン開催報告
アウトリーチ実施報告 5
Cellist's update 6-7
事務局からのお知らせ 8

世界はもっと響きあう

Photo by 池上直哉、坂中雄紀

ASIA PACIFIC CELLO CONGRESS 2020

最終日のグランドコンサートではプロ27名、アマチュア100名の総勢127名がチェロ・オーケストラとしてサントリーホールの大ホールの舞台にありました。



© Yuki SAKANAKA (写真①～⑦)

■チェロと仲良くなるコンサート(写真①②)全8組が出演。ソロやデュオ、トリオで、各組15分程度演奏されました。チェロが持つ豊かな音色を共演者と共にお届け、多彩な楽曲に乗せ、チェロの新たな魅力を発見できる場となりました。出演者は以下の通り(出演順)。北村陽さん、上森祥平さんと野田清隆さん(Pf)、田中雅弘さんと篠崎友美さん(Va)鈴木大介さん(Gt)、荒庸子さんと台湾からレイ・チョウ・チャンさん(Vn)ジョアンナ・シンルー・ティンさん(Pf)、宮田太さん、イ・カンホさんと練木繁夫さん(Pf)、向山佳絵子さんと水谷上総さん(Fg)、堤剛さん。■ヤング・チェリスト・プロジェクト(写真③)伊藤悠貴さんプロデュースによる若手チェリスト(伊藤さん、泉優志さん、稲本有彩さん、黒川実咲さん、佐山裕樹さん、矢口里菜子さん)6名が繰り広げるエネルギッシュな演奏会でした。泉さんのソロからスタートし、デュオ、トリオ、カルテット…そして6重奏と、様々なバリエーションで聴衆を魅了しました。■Asia meets Bach(写真④⑤⑥⑦)J.S. バッハの「無伴奏チェロ組曲」をアジアの作曲家による小品と共に演奏。第1番から山本裕康さん、辻本玲さん、遠藤真理さん、キン・リウエイさん、ヤン・スンウォンさん、長谷川陽子さんの順に演奏されました。小品は各演者が選曲、世界初演作品が2曲あり、3時間を超えるコンサートは熱気に包まれたまま終演を迎えました。

2020年2月7日(金)～9日(日)の3日間、「アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2020」が開催されました。一般財団法人日本チェロ協会が主催するコンGRESSの開催は「チェロ・コンGRESS・イン・ジャパン 2011」以来、実に9年ぶりとなります。「世界はもっと響きあう」というテーマのもと、国内に留まらず、海外からの参加者を含め、総勢約300名のチェリストやチェロ愛好家の皆様が一堂に会しました。会期中、サントリーホールにおいて4つの演奏会、マスタークラス、子どものためのワークショップを企画し、様々な形でチェロの可能性と素晴らしさを体感、チェロを満喫、大盛況のうちに幕を閉じることができました。「人の声に最も近い音色の楽器」といわれ、常にアンサンブルの要となるチェロ。3日間を通して、多くの参加者が、プロとアマチュア、若手とベテラン、奏者と聴衆といった垣根をこえて、チェロで一つになる時間を作ることができていれば幸いです。

VOICE

R172 山口浩史

9年前に開催されたチェロコンGRESS・イン・ジャパン2011に参加して以来、毎年開催されていた「チェロの日」には出たいと思いつつもなかなか予定が合わず、羨ましい気持ちで眺めていましたが、今回念願叶って、本当に久しぶりに参加させて頂きました。

金曜日の「チェロと仲良くなるコンサート」の途中から滑り込みました後、いきなり会場の熱気にやられました。土曜日午後の「ヤング・チェリスト・プロジェクト」では、若い世代のチェリストたちの飛躍した演奏を楽しみました。皆、素晴らしい圧倒的なテクニックで自由自在に表現するさまが心地良かったです。午後、新倉先生の優しい指導で友人達の音がぐっと素敵になるところを見て深く納得した後、夜の「Asia meets Bach」を聴きました。それぞれ演奏家たちがバッハの組曲1曲と現代曲を1曲演奏する、大変面白い、そして恐らくチェリスト達にとってはとてもプレッシャーのかかる演奏会だったと思います。プロアマ問わず誰もが生涯大事にしていける組曲ですが、さすがに一流の演奏家の方々が丹精込めて紡ぎ出す音楽はストレートに心に響きました。日曜日、午前中はチェロ・オーケストラのステージリハーサル、山本先生のタクトの下楽しく進んでいきました。石島さんと一緒に数多くのリハーサルを重ねてきた我々アマチュア達にとっては、とても幸せな時間でした。僕個人的には、後ろから見たコンサートマスターのヴァルガさんが、インザツツを出すときのわずかな首筋の美しい動きにすっかり見とれてしまいました。グラウンドコンサート本番、スズキ・メソッドの生徒さんとジュニア会員達の清らかな響きに心奪われ、ダブルユアさんによるロッシニの超絶技巧に圧倒され、大家の先生たちのしっとりとしたチェロアンサンブルを堪能した後にはチェロ・オーケストラ本番、客席の友人達からもとても好評をいただいていた、楽しい良い演奏会でした。

R183 白柳慶之

チェロオーケストラの練習も大詰めを迎えた演奏会本番10日前、幸運にも今回初めて企画され



チェロ・グラランド・コンサート

世代、地域、プロ・アマチュア、 垣根を越えたアンサンブル・コンサート

最終日の9日、コンGRESのフィナーレとして、チェロ・グラランド・コンサートがサントリールホール大ホールにて開かれました。
第1部前半は、総勢90名の才能教育研究会（スズキ・メソード）の生徒による演奏が披露されました。今回協賛頂いたスズキ・メソッドは、参加者が全国各地から集められ、22名の指導陣のもと、公式練習会、リハーサルを経て本番に臨まれました。

後半は、当協会のジュニア会員とスズキ・メソッドの生徒による合わせて32名の演奏。前日にサントリールホールのリハーサル室にてアンサンブルレッスンを受け、演奏会に臨みました。参加者の中には、ジュニア・チェロ・キャンプ等ですでに知り合っている子供達もいましたが、ほとんどの方がレッスン時に初顔合わせとなりました。2日しかない短い期間の中で、宮田豊先生（スズキ・メソッド所属）による指揮とご指導のもと、始めはまとまりのないアンサンブルも段々と豊かに響きあい、同時に、子供達の絆も深まっていくのを感じました。自分の背丈ほどの分数チェロを演奏する姿は微笑ましい反面、子供達だけでも大人に負けないくらいの迫力の演奏でした。

第2部は、岡本侑也さんと水野優也さんによるデュオの演奏から始まり、パウロニアチェロカルテット（小林幸太郎さん、大宮理人さん、鈴木皓矢さん、中条誠一さん）による四重奏、堀了介さん、石川祐支さん、植草ひろみさん、小川剛一郎さん、玉川克さん、築地杏里さん、堀沙也香さん、松波恵子さん、三宅依子さん、山崎伸子さん、上村文乃さん、笹沼樹さんによる12人のアンサンブル、と様々な形態でチェロ・アンサンブルが繰り広げられ、最後は堤剛さん率いる、海外勢による6重奏の演奏で締めくくられました。ニュージブランドからインバル・メギドさん、韓国からイ・カンホさんとヤン・スンウォンさん、シンガポールからキン・リウエイさんをお招きし、会員のお一人としてハンガリーからタマーシユ・ヴァルガさんも出演されました。
そして、第3部はいよいよコンGRESの目

玉となるチェロ・オーケストラの演奏でした。100名を超えるチェリストの多彩な響き、舞台の端から端までチェロが並んだ様子は圧巻、迫力ある演奏と共に、お客様に耳だけでなく視覚からも楽しんでいただけたことと思います。

今回のコンGRESは国内に留まらず、アジア大洋地域からチェリストをお招きすることができ、どの演奏も個性がひかり、優雅で贅沢な時間となりました。お客様の鳴りやまぬ沢山の拍手の中、無事にコンGRESの幕を閉じることができました。

ワークシヨップ クリニク&トーク

新倉瞳さん主宰による チェロ・クリニクと、 トークイベント（伊藤悠貴さんと共に）

今回、コンGRESの参加者限定のイベントの一つとして、新倉瞳さんによるチェロ・クリニクと、トークシヨが8日の午後16時に味覚糖UHA館にて行われました。

前半のクリニクでは三木隆二郎さんと白柳慶之さんがそれぞれ課題曲を受講。後半のトークでは、新倉さん、伊藤さんお二人ならではの留学先（スイス、イギリス）の音楽活動や音楽教育、言語、食事にまつわるエピソード、音楽会を作り上げる上での選曲における工夫や演奏家としての身体づくりに関すること等をお話しいただきました。



© Yuki SAKANAKA



た会員向けのイベント、チェロクリニク受講決定メールが無い込んだ。3スタンドで中低音の和声のほほんとして楽しんでた私の脳内を急にバツハの3番プレリユードがぐるぐる巡り始めた。仕事後に深夜のわか練習を繰り返して不足のままクリニク本番を迎えたが、講師の新倉先生は噂に違わぬ美しさでぱっちり覚醒した。聴衆全員がチェリストという厳しい視線のなか、夢中でバツハを弾き終えた。新倉先生からは、もう少し駒よりを弾くともっと楽器のポテンシャルを引き出せるぞと、ベースの音をしっかりと響かせることなど技術的なアドバイスをいただいた。さらに、バツハは自由度が高くどのような演奏を目指すが、イメージをしっかり持つことが大切であることを教えていただいた。白柳さんは、ご自分のバツハの演奏が好きですか？と聞かれ、21年前に私の結婚式で故青木十良先生がバツハの6番ガボットを演奏して祝福して下さった音が蘇ってきた。深く、ほくほく音をつつ紡ぐ様を思い出した。バツハを練習する方向性が明確になった。新倉先生、ありがとうございました。
仕事のため初日は参加できなかったが、ヤングチェリストプロジェクトでは日本の若手チェリストのテクニクに感嘆し、Asia Heats Bandでは6人6音色を楽しんだ。グラランドコンサートではスズキメソッドの演奏に堤理事長と同様胸を熱くし、ダブルメソッドの演奏には今後の世界での活躍が目に見えた。肝心のチェロオーケストラは、クリニクの後遺症でへ口へ口になってしまった。

興奮が冷めない帰り道、このような素晴らしいコンGRESを企画し陰で支えてくれたチェロ協会のスタッフ、ボランティアの皆さんに心から感謝し、これからはチェロ協会の一会員として少しでも恩返しするぞと心に誓った。本当に充実した3日間をありがとうございました。



© YUKI SAKANAKA

子どものためのワークショップ チェロでめぐる音の旅

チェロの音色やリズムにあわせて、親で体を動かしたり、歌を歌ったりしながら、チェロの響きを楽しもう！

コンサート最終日、普段はコンサートに参加できない未就学児向けのイベントがサントリーホールブルーローズで開催されました。

音楽ワークショップ・アーティスト「おとみつく」さんから、坂本夏樹さん、磯野恵美さん、そして日本チェロ協会からは高橋麻理子さん、黒川実咲さん、矢口里菜子さんの3人のチェリストでお届けしました。

第1部では0歳6ヶ月から2歳児と、まだ歩くことも覚えない子供達もいる中、おとみつくさんの作り出す世界はあつという間に子供達をひきつけ、そこに今回の要であるチェロという楽器を巧みに使って音楽を身体で感じさせていました。高い音から低い音まで、沢山の音域が出るチェロが、動物に変身したり、子守歌になったり、舞踏会の音楽にかわったりと、子供達もチェロによる音楽に馴染み、演奏会を楽しんでいました。

また、第2部は3歳から6歳と、曲目は同じなのにガラッと雰囲気が変わり、どの子も元氣よく歌って踊ってジャンプして、音やリズムを身体いっぱいを感じながら、親御様と共に笑顔溢れる時間を過ごされました。

50組以上の参加者の方々から大変好評を頂き「またこういう企画をぜひやってほしい」「子供だけではなく親も楽しめた」というお声も頂きました。普段は未就学児お断りが多いコンサートという世界に、沢山の親子をお招きし、新しい分野への興味が芽生えるお手伝いのできるのあれば、今後もこのような企画を増やしていきたいと思えます。

左記 坂本夏樹さんから寄稿いただきました。

チェロコンサート初の未就学児向け公演ということで、早い段階での申込みと当日の参加率から、参加者の方々の興味関心の高さを感じました。おかげさまで、沢山の親子と一緒に素敵なチェロの旅を過ごすことができました。

チェロの響きは居心地が良いのか、普段よりも穏やかな時間が流れていたのが印象的でした。音の高さ、大きさ、演奏の動きなど子供達が魅力的に感じる部分が多いのかもしれない。じつとチェロから目を離さずに鑑賞する姿が多く見られ、驚きました。

また、チェリストの皆さんとご一緒できたことも大変光栄なことでした。私たちのアイデアを演奏で表して頂くために、様々な工夫を凝らして下さり感謝申し上げます。チェリスト、子供達、おとみつく

の化学反応により起きた会場の温かい雰囲気、チェロの可能性を大きく感じた1日でした。

公開マスタークラス

受講生 Lee Seon (韓国 11歳)、
神倉辰佑さん (東京藝術大学)

7日と8日、2日にかけて、サントリーホールブルーローズをはじめ、リハーサル室、楽屋にて、マスタークラスを開催しました。堤剛さん、辻本玲さん、西谷牧人さん、林俊昭さん、山崎伸子さん、海外からはイ・カンホさんとインバル・メギドさんと沢山の先生に講師を務めていただき、受講生は韓国からのお二人を含め12名が受講されました。(会場の関係により、一部非公開になりました。)

国際色溢れるマスタークラスに、いつもと違う緊張感を感じながら、受講者、聴講者共に大変有意義な時間となったことと思います。

今後も若手の育成に力を注いで参りますので、将来プロのチェリストを目指す方々にはマスタークラスの受講につき積極的に挑戦してほしいと切に願っています。

S227 俞世娥

ジュニア・チェロ・オーケストラ練習の初日、私は少し緊張していました。でも、演奏が始まるとすぐに、サウンドとすべてのパートが混ざり合い、私は本当に楽しむことができました。日本や世界の色々な場所から来た人々がチェロ・コンサートに来て一緒に演奏することができたことは特別な経験でした。小さい頃から、サントリーホールでコンサートを見てきましたので、実際にステージに立って演奏することは素晴らしい経験でした。ステージで演奏を始めると、音がホール全体に広がっているように感じました。チェロ・コンサートの期間中に多くのコンサートを見るのも本当に楽しかったです。演奏者はそれぞれが多様で、彼らの演奏を通して、私はたくさん学ぶことができました。パツハ無伴奏組曲と現代曲の演奏会はとても素敵でした。現代曲の演奏は、私が今まで聞いてきたものとは全く違いました。最後の日のチェロオーケストラは素晴らしい、私は今までこれほど多くのチェロを見たことはなかったです。すべてのチェロから作られた音は、私の人生で聞いたことも経験したこともないものでした。全体として、今回のチェロ・コンサートは私に特別な経験であり、いつまでも忘れないと思います。ありがとうございました。

アジア・パシフィック・チェロ・コンサート 2020

EVENT SCHEDULE



2/7 (FRI)

① 10:00 ~ 会場 | サントリーホール ブルーローズ、他
マスタークラス

② 18:30 ~ 会場 | サントリーホール ブルーローズ
チェロと仲良くなるコンサート

2/8 (SAT)

① 13:00 ~ 会場 | サントリーホール ブルーローズ
ヤング・チェリスト・プロジェクト

② 15:00 ~ 会場 | 味覚糖 UHA 館 TKP 溜池山王 CC
ワークショップ クリニック & トーク

③ 18:30 ~ 会場 | サントリーホール ブルーローズ
Asia meets Bach

2/9 (SUN)

① 10:30 ~ 6ヶ月から2歳 会場 | サントリーホールブルーローズ

② 11:30 ~ 3歳から6歳

子どものためのワークショップ チェロでめぐる音の旅

③ 14:00 ~ 会場 | サントリーホール 大ホール

チェロ・グランド・コンサート

第1部：ジュニア・チェロ・オーケストラ演奏

(I) スズキ・メソードの生徒

(II) 日本チェロ協会ジュニア会員とスズキ・メソードの生徒

第2部：プロのチェロ奏者によるアンサンブル演奏

第3部：チェロ・オーケストラ演奏

Cello Salon

チェロ・サロン
開催報告



参加者数
講師：1名／クリニック受講生：2名／アンサンブル参加者：31名／聴講：10名
合計46名（会員：40名・非会員：1名・スタッフ：5名）

チェロクリニックを受講して

R-520 岡村 匡純

チェロクリニックで神奈川フィル首席奏者の門脇大樹先生からヴォカリーズのレッスンを受けました。アドバイスをお願いしたのは、緊張して弓が弦をしっかりとつかまないとへの対策、フレージング、ピブラートでした。参加者40人を前に右腕が緊張して弓が浮いてしまったので、まずは緊張緩和策。ひとまず楽器を置いて、片足で立って歩くのように両腕を振るという運動。これによって気持ちがリラックスし、体の緊張が和らぎ、弓をしっかりと弦にのせることができました。ヤーノシュ・シュタルケル自伝の中にも書かれていますが、チェロは手や腕だけで弾くのではなく身体全体で弾くもの。本を読んで頭では分かっている事も、こうして目の前でアドバイスを頂くと効果がすぐに分かってとても勉強になります。フレージングやピブラートは何となくの所があったのですが、分かり易く基本を教えてくださいいただき、とても勉強になりました。

2019年11月24日(日)に、サントリーホールのリハーサル室で、門脇大樹さんの主催によるチェロ・サロンが開催されました。今回で42回目となります。

門脇さんは、東京藝術大学を卒業後、ロームミュージックファンデーションより奨学金を得てレツジョエミリア音楽院(イタリア)に留学され、国内外の様々なコンクールで入賞されていらつしやいます。現在は、東京音楽大学伴奏科、東京芸術大学非常勤講師として、また神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者としても活躍されています。

チェロ・サロンの前半では、会員のお二方がクリニックを受講され、岡村匡純さんはラフマニノフの《ヴォカリーズ》、平野千世さんはゴルターマンの《チェロ協奏曲》第4番より第1楽章の冒頭部分を課題曲としてお持ちになりました。クリニックの中では、曲のご指導のほか、ボウイングのヒントとなる腕の振り方や、指回しの練習法など実践的な練習方法についてもご指導があったため、受講者だけでなく聴講者の方も、身を乗り出してお話を聞く姿が見られました。

後半では、コングレスのアンサンブル曲にもなっている、バーンスタイン《大脱走のマーチ》、モリコーネ《ニュー・シネマ・パラダイス》を課題曲として、アンサンブルをご指導頂きました。場面ごとの弓の使い方や、アンサンブル演奏における指使いを確認するなど細やかなアドバイスを頂きました。

終了後の懇親会では、参加者の皆さんが輪になって門脇さんを囲みながら、和やかな雰囲気の中、様々な雑談に花が咲いていました。

訪問演奏して頂いている当「国立成育医療研究センター病院」は、日本で最大規模の小児・周産期・産科・母性医療を専門とする国立高度専門医療センターです。日々全国から沢山の幼い患者さんが訪れ、ご家族と共に病氣と闘っておられます。

2015年に長谷川陽子さん、そしてそれ以降は高橋麻理子さんを中心に貴協会の方々に訪問演奏会を開催して頂いております。

昨年12月2日にも高橋麻理子さんを中心に、昼に外来エントランスホールで1回、午後からは4つの病棟で演奏して頂きました。病棟のイベントは14時から16時の間に開催という制約がある為、20分演奏、直ぐに移動、また演奏という繰り返すになりとても大変だと思のですが、その様な中でも皆様は毎回笑顔で素敵な演奏を披露して下さいます。今回は、高橋さんの企画でマンドリンの堀雅貴さんも加わって下さり新しい形でのアンサンブル演奏となりました。

国立成育医療研究センター ボランティアイベント担当 竹内恵子様より

アウトリーチ 実施報告



日本チェロ協会様には、毎回楽しい演奏会を開催して頂き本当にありがとうございます。

2019年12月2日(月)、国立成育医療研究センターにてアウトリーチを実施しました。前回に引き続き、チェリストの高橋麻理子さんを筆頭に、出演者(編成)決めや選曲等を行い、チェロ3本にマンドリンのアンサンブルでお届けして参りました。

チェロの重厚な音色にマンドリンのトレモロ奏法で奏でられる旋律はとても相性が良く、子ども達の耳にしっかりと届き、様々な感情を引き出しているように感じられました。沢山のアンコールをいただいたのは、意外にも《キューピー3分クッキング》でした。

病棟では食堂やプレイルームが会場になりますが、症状によっては病室から出られないお子さんもたくさんおられます。たまたま今回はそういったお子さんのお誕生日当日に重なり、病棟保育士からの依頼に答えて直ぐに即興で「ハッピーバースデー」の演奏をプレゼントして下さいました。姿は見えませんが、お部屋には演奏とみんなの歌声そしてお祝いの気持ちもしっかりと届いた事でしょう。また、あるお子さんは知的障害がある為にどうしても息遣いが荒くなったり唸り声を上げたりしてしまうのですが、演奏の間は不思議と穏やかな息遣いで大人しく演奏を聴いていらしたのが、とても印象に残っております。

美しい音楽を生で聴かせて頂き、患者さんのみならず付き添いのご家族やスタッフもほっこり癒され、例え一時であっても緊張から解放される時間は本当に得難いものだと思っております。

一昨年に病棟を回って頂いた折に、ある小さい男の子がにこにこしながら教えてくれた感想です。「ちえろって始めて！でもたのしかったよ！」



アウトリーチ実施報告
日時：2019年12月2日(月)
実施場所：国立成育医療研究センター(東京都世田谷区)
参加者：高橋麻理子、岡村匡純、田中渚(Vc)、堀雅貴(Mand)



©Hikaru. ☆

R-502 Hiroyasu YAMAMOTO

山本 裕康さん

1. 近況を教えてください

チェロコンGRESSが終わった後、びわ湖ホールでの「神々の黄昏」に参加しておりましたので、丸々3週間京都とびわ湖におりました。ただ公演自体はコロナウィルス感染防止という事で中止となりYouTubeでの生配信と言う事になりました。

• YouTubeでの生配信、いつもと違う感覚はありましたか？

お客様がいらっしやってもいらっしやなくても、演奏する事には何も変わる事はなかったですね。当たり前ですが、幕が閉じる時に拍手がないと言うのはありますが、やはりそのカメラの向こうには聴いてらっしゃる方々がいる訳ですから、基本はほぼ何も変わらなかったです。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

弟(現在都響コンサートマスター)が最初バイオリンをやっており、何か僕もやりたいとは思っていたのですが、同じ楽器はやっぱり嫌で何かないか探していた時父親が「チェロと言う楽器がある」と言うのでチェロを選び始めました。9歳か10歳頃だったと思います。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

ワクワクですか。旅の仕事から帰る途中に(猫ちゃん達に会える)と思った時ですかね。あとは最近ではポップスのエチュードを練習してほんの少し精度が上がった時かな？

4. 先日のコンGRESSの感想をお聞かせください

バッハの無伴奏の1番と桑野聖さんの作曲した《おでかけゴブリン》の2曲を演奏させて頂きましたが、会場で聴いてらっしゃるお客様のほぼ9割がチェロを弾かれる方で、しかも僕が学生時代試験やコンクールで審査されていた先生方が勢揃いされた中での恐怖感には言葉には表せないほどでした。(ホントに舞台の真ん中まで歩いて行けるのか?)と思ったくらいです。《おでかけゴブリン》は昔からの友人でバイオリニストの桑野さんに作曲を依頼したのですが、昔から彼の曲は

好きでしたし、いつか曲を書いて欲しいと思っていましたが、なによりも彼の生き方にずっと尊敬してきました。彼はポップス等のレコーディングや大物アーティストのツアーなどで活躍していますが、本当に心優しく、最近では社会的弱者のためのコンサートをしたりもしています。そして社会に対して、とりわけ差別や偏見に対しての強い想いに僕も強く共感していましたので、チャンスだと思い今回曲を依頼しました。バッハの1番を弾いてから弾く無伴奏をとお願ひしましたので、これから1番を弾く時は必ず演奏したいなと思っております。そして多くの方に弾いて欲しいと思っております。

• 新作に挑戦する時に心がけていることは？

出来上がって来たのが1月の半ばでしたので、まずは指遣いや弓を決める事に必死になりました。そして部分的に楽譜に書かれている指示をとにかく身体に入れようと練習しました。12音や無調で書かれた曲ではないので、逆に間違いは初演と言えどもお客様に分かってしまうと言う怖さがありました。新しい曲に挑戦するときは、音源は絶対に聴かない事にします。新曲はもちろん音源がないので聴く事は出来ませんが、既存の曲も本番まで聴きません。

5. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

そうですね、こんな時代だからこそ強く生き抜いて欲しいと思います。それはまず精神的に自立する事、常に我々は社会と関わっていくわけですから世の中を冷静に見て常に自分の考えを持って欲しいと思います。日本の事を知るために海外に行き、外から日本を眺めて欲しいです。多様な考え方を知り日本の良いところ悪いところを自分なりに見つけて欲しいですね。その自分の言葉が音楽につながるといいますし。当然語学も身につけて欲しいです。自分で限界を設定せずに思いっきり勉強してほしいと思います。

Upcoming Events

第8回演奏会 ベートーヴェン・チクルスV

日時/2020年6月20日(土)14:00開演
会場/第一生命ホール
出演/トリトン晴れた海のオーケストラ
料金/S席¥8,500 A席¥7,000 B席¥4,500 U25 ¥1,500 (25歳以下)
曲目/ベートーヴェン:交響曲第9番 二短調 Op.125(合唱付)
問/【チケットお取扱】トリトンアーツ・チケットデスク
TEL:03-3532-5702 (平日11:00~18:00)



R-469 Kotaro KOBAYASHI

小林 幸太郎さん

1. 近況を教えてください

僕の活動の場合は、やはりチェロアンサンブルでの活動が多いです。特に最近ではメンバーの留学からの帰国やオケの退団などがあり、パウロニアチェロカルテットでの本格始動をしました。

• 年にどれくらいコンサートを行っていらっしゃるのですか？

これまでは、年に1~2回の自主公演、その他は依頼を頂いて年数回演奏をさせて頂いていましたが、今年からは自主公演の回数や活動拠点を増やしていく予定です。

• コンサートの特徴は？

クラシックはもちろんのこと、ジャズ、ポップス、現代曲など幅広いジャンルをオリジナルアレンジで取り組んでいます。ホールでのコンサート形式とアートカフェ等でのライブ形式があり、それぞれコンセプトや選曲等も拘っています。

• プロフィール写真はどちらで撮影されたのですか？思い出は？

早朝の銀座にてカメラマンの廣川りんさんに撮って頂きました。中々構図が決まらず車通りの少ない時間に撮り切るのが大変でしたが、良い写真が撮れて良かったです。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

7歳の時偶然祖母の家にあったヨーヨーのCDに興味を持ち、それ以来チェロの音が好きになりました。

• 作編曲についても力を入れていらっしゃいますが、そちらのきっかけは？

恩師の倉田澄子先生の夏の合宿がきっかけです。先生の合宿では必ず出し物をするのが定番なのですが、その際、どうしても演奏してみたかった「ラブソディインブルー」。市販には存在せず、「無いなら作ってしまおう!」というのがスタートでした。

• 編曲をされる時、何か気を付けていらっしゃることは？

チェロアンサンブルの場合は、上手側(オーケストラで言うチェロ、コントラバス側)であっても同じ楽器なので高い音域を選択する事ができます。その為音の指向性を工夫する事により、より立体的な音作りを意識しています。あとは同じ曲でも知り合いのチェリストさんであれば特徴やイメージによって少しずつ作り変えたりもしています。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

チェリストは集まる事が多いと思いますが、一緒に演奏をする時等に「そこをそんな風に弾くのか!」とか新しい発見や関心を持たれた時最近ではワクワクしています。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

物作りが好きです。楽譜とかもそうですが、最近引越しをしたので、テーブルや家具など自分で作ったり改良したりするDIYにハマっています。自分にだけに分かる設計図のイメージみたいな物を作ってから作り始めます。

5. 先日のコンGRESSの感想をお聞かせください

あのサントリーの大ホールでチェロアンサンブルを演奏させて頂けたのは、やはり格別でした。最後の大編成の合奏もあれだけ沢山のチェリストが集まって演奏をしている様子やサウンドも壮観。次回は是非ステージに余裕があれば合奏も参加させて頂きたいです。

• 曲選びで工夫されたことは？

「アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS」という事で、まずは日本の曲は必ず入れたらいいと思い、日本語の「さくら」を、「感傷的なワルツ」はプロからアマチュアの奏者さんまで沢山の方が演奏される曲と思い、オリジナルアレンジのカルテット版で演奏してみました。そして、最後はやはりチェロカルテットの定番という事で、ポップスのポロネーズを選曲させて頂きました。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

チェリスト、アレンジャーとして更なるチェロの可能性の追求、沢山の方々に楽しんで頂けるレパートリーや環境作りを積極的にしていきたいです。

Upcoming Events

パウロニアチェロカルテット Live @Art cafe friends

日時/2020年8月29日(土)13:30開演(12:00開場)
会場/恵比寿 アートカフェフレnds 料金/¥3,500 + ¥500 1stドリンク
出演/村井智、小林幸太郎、鈴木皓矢、大宮理人(Vc)
問/https://kurusavc.wixsite.com/pcqweb

Cellist's Update



R-613 Arisa INAMOTO

稲本 有彩さん

1. 近況を教えてください

昨年の夏に3年弱のフランス留学を終え、完全帰国しました。

・留学中のことをお聞かせください

留学2年目からは郊外のヴェルサイユに引っ越したのですが、本当に素敵な街で、そこで暮らした何気ない日々が一生の思い出になりました。空気が美味しくてのどかな街並みで、朝焼けや夕焼けも美しい所でした。学校からヴェルサイユに帰ってくると、いつもほっとして暖かい気持ちに包まれました。何にも代え難い忘れられない日々です。暮らす街から貰うアイデアやインスピレーションがあるという事も素晴らしい学びになりました。フランスで師事していた Marie-Paul Milone (マリー=ポール・ミロンヌ) 先生は、とても面倒見が良く、エネルギーに満ち溢れた女性でした。手取り足取り教えて下さり、レッスンは毎回全く妥協無く、あまりの厳しさに落ち込んだりすることも多々ありました。音楽的な事、テクニカルな事は勿論教えて頂きましたが、1番ベースとなっていたのは身体への使い方についてですね。身体の動きは無意識にやっている事が多いので、それらを直す作業は本当に大変でチェロを弾くこと自体が難しくなった時期もありました。試行錯誤の毎日でしたが、彼女の教えはチェロを弾く上で今もずっと助けになっています。

帰国後はソロや室内楽のコンサートの企画、チェロを教えることも始めました。久しぶりの日本での生活を満喫しています。やっぱり日本はご飯が美味しいです！

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

5歳の頃、母に教会のミサに連れて行ってもらった際、偶然その日はスロバキアから弦楽合奏団が来て演奏をしていました。それを見て「あの大きい楽器(チェロ)がやりたい！」と言ったそうです。その後両親に小さなチェロを買ってもらってレッスンに通うようになりました。初めてキラキラ星を弾けた時の嬉しさは今でも覚えています。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

自分がリスpectする演奏家の方とアンサンブルする時。沢山刺激をもらえるし、とにかく楽しくて熱い気持ちになります。



S-081 Ayano KAMIMURA

上村 文乃さん

1. 近況を教えてください

ドイツに1年、スイスに6年、計7年ヨーロッパに留学しています。元々日本で活動したいという思いが強かったので、こんなに期間が長くなるとは思っていませんでした。勉強に励む事、それは人前に立つ事とはまた違った角度で自分を見つめることで、追求すればする程に己の未熟さを痛感する日々でした。モダンチェロでのカリキュラムを完全に卒業し、その直後から新たに古楽科にて学び始めた事も、これからの人生を考えた上で私にとって必要不可欠な決断でした。留学中涙が止まらないほど寂しさや苦しさを感じ、耐えられないと思った事もありましたが、時間と共に心を落ち着かせ、今年入ってから物事をとてもポジティブに受け止められるようになり、今夏の完全帰国を前になにか自分の芯が定まったように感じます。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

元々両親がクラシック音楽好きで、3歳からピアノを始めました。千葉にある桐朋の音に、当時まだ学生でいらした熊澤雅樹先生と、井上雅代先生が交代交代で来て下さり、よちよちチェロの道を歩き始めました。そのうち熊澤先生の師匠である毛利伯郎先生の御宅に伺うようになり、桐朋へ入学。数年後には堤剛先生に出逢い、私の道は瞬間に広がっていきました。私は女性にしては身体的に大きいですが、なにより私はチェロが大好きになれたので、チェロを与え、支えてくれた両親にとっても感謝しています。

3. 先日のコンGRESの感想をお聞かせください

素晴らしい会でした！なにより、同じ楽器で集う事は数少ない機会でした。桐朋を卒業して以来なかなか会えなかった友人や、大変ご無沙汰している先生方、留学前に「チェロの日」に出演させていただいたときお声かけ下さったチェロ愛好家のみなさま、東京以外の地でお会った方々、沢山の方々のお顔を拝見して、7年日本を離れた私にとってなんとも言い難い大切な時間でした。また、以前カサ

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

お買い物をしたり、化粧品を集めるのが好きです。あとはとてもインドア派なので、休みの日はのんびりしながらNetflixで映画やアニメなどを見るのが好きです。

5. 先日のコンGRESの感想をお聞かせください

チェロ協会のコンサートへの出演は初めてだったのでリハーサルからとても緊張していましたが、素晴らしいチェリストの皆さんとの共演は本当に楽しかったです。プログラムの中のピアソラの「ブエノスアイレスの四季」は大好きな曲で、ずっと弾いてみたかったので、チェロアンサンブルで演奏できたことはとても貴重な経験になりました。

・共演者、演奏曲について

ほとんどの皆さんが初共演でしたが皆さん本当に素晴らしいチェリストで、沢山のインスピレーションを頂いて刺激的な時間でした。リハーサルも本番も、良い緊張感の中でアンサンブルを楽しむ事が出来ましたし、様々な曲に取り組めたのも貴重な経験となりました。

それと、ストゥチュフスキーの「スリー・フォー・スリー」という曲は知らない曲で録音もどこにもなく、どんな曲なのかどんなニュアンスで弾くのか等、共演者の方と一緒に想像しながら取り組んだことも印象深いです。この曲は3本のチェロの為の曲だったので、まずは3人集まって音出しをしてみて、その後スコアを見ながらここはこうしよう、このぐらいのテンポで、など細かく少しずつリハーサルを進めました。どのような曲なのか、皆で想像力を働かせながら曲作りをしたのは新鮮で楽しかったです。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

まだ帰国して活動を始めたばかりなので分からない事ばかりですが、一つの演奏を大切にしていきたいようなチェリストになりたいです。日々学び続ける姿勢を忘れずに成長し続けていきたいです。

Upcoming Events

2台チェロコンサートシリーズ Vol.2

日時 / 2020年6月4日(木) 19:00開演(18:30開場)
会場 / 近江楽堂
料金 / 一般 ¥3,500 学生 ¥2,000
出演 / 稲本 有彩 広田 勇樹 (Vc)
問 / arisa.cello@gmail.com / 080-2720-2173

ドコンクールで演奏を聴いて下さったヤン先生にその時以来の再会を果たしたのですが、舞台裏でははっきり「あやの！」と名を呼んで下さった時は、目が飛び出るほど驚きました。

私は12人のチェロアンサンブルに参加させていただきました。本当にチェリストって良いなと思う瞬間があって、世代を問わず音楽の為にアイデアを出しあえる和やかな空気がそこにはありました。音楽に身を捧げる行いを皆で分かち合えた気がします。先生方の深い懐に包まれて、若者世代にとって大変光栄な時間でした。そしてなにより感動したのがキッズたちのアンサンブルでした。拝聴していてとても胸が熱くなりました。私も更に身を引き締めて頑張ろうと思いました。チェロを愛するという強い念があのサントリーホールに解き放たれました。

4. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

私はチェロという楽器が大好きです。それを辿っていくと、音楽が大好きになり、そして芸術に興味を抱くようになりました。手練り寄せていくと、芸術は社会に、人に繋がり、人は自然とともにあることを強く感じます。この世のなかに繋がっていない事一つもないと思うのです。音楽もそれが何であれ、なにか光るもの、強い意志、伝えたいという気持ちがあれば、どんな方にも聴こうと思って頂けるのではないかと思います。人は自分となにか共通項を見出す事によって、関心を持つと思うのです。ゴーギャンの代表作「私たちはどこから来たのか？ 私たちは何者か？ 私たちはどこへ行くのか？」ふとしたときにこの言葉が私に問いかけてきます。

今後は、音が時・国・人種を超えてのコミュニケーションとなり、心に寄り添う音を奏でられる様なチェリストになりたいです。またどんなに歳をとっても無知を恐れず、知る事に貪欲でありたいと思います。今年の夏で留学生活に終止符を打ち、東京に完全に帰るので、張り切って頑張りたいと思います！！プライベートレッスンも行なっていきたいです。私に出来る事があればお手伝いさせていただきます。

Upcoming Events

上野 de クラシック vol.45

日時 / 2020年5月22日(金) 19:00 - 20:00
会場 / 東京文化会館小ホール 料金 / ¥1,100
出演 / 平山 麻美 (Pf)、上村 文乃 (Vc)
問 / 東京文化会館事業係 03-3828-2111 (代表)

WELCOME

2019年度 新規入会者のご紹介(ご入会順)
今年度は、新たに88名の方に加わっていただきました。

正会員 60名

高森 みや子さん	金親 香子さん	野々山 志保さん	川原 正隆さん	檜山 大輔さん
堀 留美さん	大和田 龍之助さん	吉澤 理恵子さん	伊藤 郁子さん	高橋 陽子さん
渡部 昌子さん	鈴木 宏子さん	山田 幸子さん	桂島 直美さん	Kanta Ludovitさん
岡本 香苗さん	西村 裕子さん	吉澤 弥重子さん	白柳 慶之さん	森 大地さん
水谷川 優子さん	名原 克典さん	舛見 三和子さん	佐藤 弘美さん	高橋 信樹さん
藤 岳さん	八代 みゆきさん	花輪 宏子さん	岡村 泰豪さん	福羽 泰紀さん
栗田 直美さん	小泉 ユミさん	佐藤 貴博さん	小林 奈緒子さん	弘田 未来さん
三宅 進さん	金山 由里子さん	中村 昌枝さん	金井 満智子さん	高木 良さん
堀木 純子さん	福田 昭子さん	小野 祐子さん	吉谷 英子さん	稲本 有彩さん
岸 千鶴子さん	堀井 由香さん	大竹 和子さん	白取 禎子さん	大宮 理人さん
		鈴木 みえさん	新 巳喜男さん	中条 誠一さん
		北嶋 健児さん	澤田 香織さん	清水 むつみさん
		松原 なつみさん	田中 愛さん	
		鈴木 恵理さん	小原 潤さん	

Special Thanks

2019年度 ご寄附をいただいた方

今年度、23名の方からご寄附(総額529,000円)を頂戴いたしました。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

石井 範昭さん	堀 了介さん
荻原 佐和子さん	堀口 省平さん
栗田 直美さん	松崎 松平さん
小林 幸太郎さん	三上 久美子さん
佐藤 匡昭さん	山崎 伸子さん
田邊 登崇さん	山本 裕康さん
長谷川 陽子さん	もえぎの会 後援会

※ご承諾を得ている方のお名前を掲載いたします

学生会員 27名

野崎 稜冬さん	後藤 深和音さん	植田 大介さん
雪江 颯太さん	荒 佳音さん	西谷 優人さん
横井 晴輝さん	兪 世娥さん	平田 孝雄さん
倉田 律さん	金刺 慶一郎さん	武内 円さん
榎 悠太郎さん	佐藤 響さん	岡本 明子さん
久保 凜太郎さん	長屋 亞矢乃さん	二神 彩月さん
浦塚 美柚さん	上田 のぞみさん	雲竜 笙子さん
出口 英樹さん	平沼 鎮吏さん	清水 博之さん
相原 一誠さん	和田 道惟さん	山本 葉路さん

賛助会員 1名

大井 法子さん

[お詫びと訂正のお願い]

JCS NEWS 会報第54号について誤りがございました。
この度は、誠に申し訳ございません。お詫びして訂正させていただきます。



P.5 マスタークラス実施報告 / 受講生写真
掲載左右順序誤り
正: 菅井 瑛斗さんの写真が右側、山本 大さんの写真が左側

P.6 チェリスト・アップデート 小川剛一郎さん質問6の回答内容について、前号に掲載の海野 幹雄さんのテキストが残留していたミスがあり、正しくは以下の通りです。



6. コングレスに向けてメッセージをお願いいたします。

昔からチェリスト達は集まるのが好きだったようです。E.フォイアマンが来日した折り、当時の「日本チェロ協会」が巨匠を歓迎しました。独奏から大人数の合奏まで同じ楽器で様々な演奏が可能なチェロの魅力が堪能できるこの企画が、これからも永く続いていくことを願っております。

© Kazuya AKASHI

2020年度 主催イベントのご案内

■マスタークラス

日時: 2020年10月2日(金)
17時半開講(予定)
会場: アスピアホール(予定)

■第4回ジュニア・チェロ・キャンプ

日時: 2020年10月10日(土)、11日(日)
会場: 桐朋学園大学 調布キャンパス

■第10回チェロの日

日時: 2021年2月13日(土)、14日(日)
会場: サントリーホール ブルーローズ

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェリストを探す

公演情報



チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第5号 2020年4月14日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム